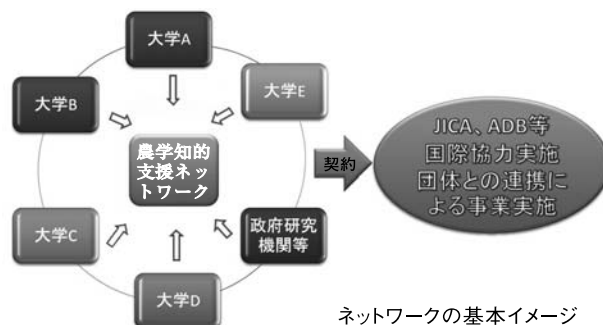


## 平成20年度文部科学省「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業に2件採択

### 農学知的支援ネットワーク形成による国際教育協力強化・推進のためのモデル構築

我が国が進める科学技術ODAの推進には、大学や研究機関がこれまで培ってきた知識や経験などの知的リソースを有効に活用して、途上国の援助ニーズに的確に 대응していくことが重要です。そのため、とすれば教員個人の努力と情熱に依存してきたこれまでの大学の国際協力から、組織的、継続的に取り組む国際協力が益々重要になってきています。それがまた開発の現場で必要とされる専門的かつ網羅的な「知と経験」の提供にもつながるからです。ICCAEは、文部科学省の強い支援を受け、我が国の大学や研究機関など有能な組織の参画を得て「農学知的支援ネットワーク」を形成し、そのための拠点作りを始めました。国内リソースと海外ニーズの把握を行い、JICAの活動や科学技術ODAの中での十全の活用をめざし、途上国との国際共同研究、JICA研修や留学生の受入など、我が国の大学が協働して国内外の若い人材の育成に貢献することを目ざしています。（浅沼修一）



### 開発途上国における拠点大学を中心とした農産物加工産業振興モデルの構築とその普及

ICCAEは「カンボジアにおける市場ニーズにあった農産物加工産業振興による農村開発モデルの構築」の研究に取り組んでいます。この研究を基にカンボジアでの農業分野の基幹大学である王立農業大学(RUA)に対して、米酒の加工および品質向上に関する農家への指導を実践する機会を提供し、RUAの教員に対する人材育成を行い、大学による農産物加工への取り組みに関する優良事例を作り、自国の農産物加工産業振興に貢献できるような能力や研究・教育体制の構築を進める支援をします。また同様の問題を抱える東南アジア諸国に対するモデル事業の発信・普及を目指した基盤整備を行います。以下これまでの取り組みです。

ICCAEはタケオ州の農家において派遣した日本の酒専門家の指導下でRUA教員と一緒に従来の発酵法と蒸留法の改良に取り組んでいます。試作した蒸留酒を12月15日から18日まで開催されたカンボジア商業省主催の展覧会に出品し、試飲によるアンケート調査をしました。匂い、味、外見とも大変好評で、商品化への期待が高いことが分かり、今後の農家の組織化と販売網の確立への大きな励ましになりました。（松本哲男）



農民への指導

## 平成20年度名古屋大学総長裁量経費に1件採択

### カンボジアにおける「地域住民を主体とした森林管理」の効果的な実施方法に関わる研究

メコン川流域諸国の中で最も高い森林率を誇るカンボジアは、地球温暖化の視点からも、森林管理・保全の強化を国際社会から強く求められています。しかし、ポルポト政権による大虐殺によって多くの知識層が失われてしまったことから、いまだに森林を適切に管理するための政策が策定されておらず、農村部の貧しい人々による森林資源の違法採取・利用・販売に歯止めがかからない状況にあります。

カンボジアにおける森林資源の劣化・減少は、多くの開発途上国と同様に貧困問題と密接な関係にあるため、森林の利用者である地域住民の生計向上への取り組みなくして森林の持続的管理を導けません。この研究では、これまでに援助機関やNGOなどによって実施されている「地域住民を主体とした森林管理」への取り組みと効果を把握し、カンボジアの歴史的・社会的背景を考慮した上で、カンボジアにおける「地域住民を主体とした森林管理」の効果的な実施方法を導くことを目指します。（伊藤香純）



薪炭材を販売する農村の住民